

道理は天地を貫く——草創期の情熱は、今もひとときわ熱く。

大阪経済大学の80年の歩み。それは、激動の時代を乗り越えてきた歴史。多くの先輩方が、その時々々の社会情勢と対峙しながら、真摯に夢を追い求めてきた、その延長線上に現在の本学があります。受け継がれてきた情熱、使命感の遍歴をご覧ください。

黎明期

1932年(昭和7年)

浪華高等商業学校開設。

これが大経大の一番最初の姿。大阪市内における唯一の私立高商としてスタートしました。



当時の卒業試験日割表。イラストがユニークです。

1943年(昭和18年)

学徒出陣壮行会。学生は学業半ばにして入営していくという苦しい時代でした。



1934年(昭和9年)

時計塔竣工。半世紀以上にわたり本学のシンボルでした。OBにとっては、忘れられない建物です。



1944年(昭和19年)

学徒動員により生徒募集停止。大阪女子経済専門学校に。



多くの先生は、慣れない女子学生相手に一苦労したそうです。

1949年(昭和24年)

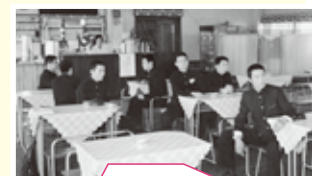
「大阪経済大学」の誕生。



戦後の教育改革に伴い、先生と学生が一丸となって大学昇格運動を展開。そしてこの年、晴れて大阪経済大学の設置が認可され、黒正博士が初代学長に就任しました。

1958年(昭和33年)

当時の食堂。



学生服とテーブルクロスの色合わせが面白いにや!



1962年(昭和37年)

当時の学舎全景。現在のレンガ調とは違い、白基調の校舎群でした。



1980年(昭和55年)

この時期は、学生たちの活動も活発化。関西六大学リーグ優勝はその象徴的な出来事でした。



クラブ勧誘風景。



昭和54年から、コンピュータも導入していました。



先生と学生の距離の近さは、今も昔も変わりません。



昭和50年代のキャンパス風景。

1932 5・15事件

1935年(昭和10年)

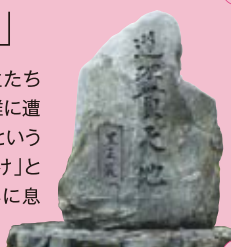
黒正巖博士による学校再建。昭和高等商業学校が発足。



存続の危機にあった学校を立て直すため、京都帝国大学教授(当時)の黒正巖博士を中心に、教員と生徒が協力して学園の整備に尽力。学校名が昭和高等商業学校となり、黒正博士が校長となって再スタートを切りました。

「道理貫天地」

黒正博士が学徒出陣の学生たちに贈った言葉。「いかなる困難に遭おうとも、道理は天地を貫く」ということに確信を持って生き抜け」というメッセージで、今も本学に息づく人材教育の指針です。



原点の確立



授業開始と終了を告げていた思いの鐘。

先生の似顔絵。学生の茶目っ気は、今も昔も変わらないようです。



みんなで、くすのきの植樹やグラウンド整備。



くすのきは、今も大学のシンボルとして健在にや。



1945 終戦

1946年(昭和21年)

大阪経済専門学校に改称し、いち早く男女共学制を導入。

1964 東京オリンピック

1964年(昭和39年)

本館・図書館竣工。残念ながら両館ともに、2012年に解体されます。



中興期

図書館収蔵のアダム・スミス『国富論』初版(1776年刊)

1970年(昭和45年)

大学立法反対スト決議、学生集会。大学紛争の波は本学にも押し寄せました。



1970 大阪万博

1995 阪神淡路大震災

1983年(昭和58年)

創立50周年記念宣言。

創立50周年という大きな節目に、記念式典を挙げる。多目的に使用できる記念館は、E館として現在も健在です。



2002年(平成14年)

創立70周年記念宣言。



この時期も大規模なキャンパス改革に着手。とくに、人間科学部の開設は、従来の「経済」大学の殻を破る大きな教育改革でした。

改革への布石